

2026年4月24日

日本ゼオン株式会社

日本ゼオン、単層カーボンナノチューブの増産を決定 リチウムイオン電池向け需要拡大に対応、2028年に本格稼働開始予定

日本ゼオン株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:豊嶋 哲也 以下、ゼオン)は、徳山工場(山口県周南市、工場長:本間 彰)において生産する単層カーボンナノチューブ(以下、SWCNT)の増産を決定しました。今回の増産により生産能力は現行比数十倍に拡大する見込みで、主にリチウムイオン電池向けに需要が拡大するSWCNT市場におけるゼオンのプレゼンス向上を図るとともに、安定供給体制の強化を図ります。工事は、2026年秋に着工し、2028年中の本格稼働開始を目指します。なお、本件は経済産業省から「蓄電池に係る供給確保計画」として認定を受けております。

カーボンナノチューブは、高い導電性や軽量といった特長を有し、さまざまな用途への利用が期待されている日本発の材料です。なかでもSWCNTは、電池のエネルギー密度とサイクル寿命を大幅に向上させる材料として需要が高まっており、電気自動車、ドローン、eVTOL 航空機などの民生用途だけでなく、AI サーバーBBU、再生可能エネルギー ESS、自動化ロボティクスなどの産業分野においても需要が急増するリチウムイオン電池への活用の期待が高い注目材料です。なおゼオンは、2015年に世界で初めて独自のスーパージョイント技術を用いたSWCNTの量産に成功し、「高純度」「高比表面積」「高アスペクト比」を特長とする SWCNTを「ZEONANO®」のブランドで製造・販売しています。

今回、リチウムイオン電池を中心とする旺盛な需要に対応すべく、ゼオンは現在量産を行っている徳山工場敷地内に、新たに建屋を建設し、生産ライン整備する予定です。なお、これまでの製法をベースに、さらに進化させた独自製法の開発にも成功しました。増設ラインでは、新製法を採用することで、さらなる生産効率化、品質向上を図ります。



ZEONANO®



徳山工場内 SWCNT プラント

ゼオンは、中期経営計画STAGE30においてSWCNTを次期成長ドライバーに位置づけ、対象市場CAGRを上回る成長を目指しています。2025年10月には、SWCNTを用いて導電ペーストを開発する台湾スタートアップ Sino Applied Technology Co., Ltd.(本社:台湾 桃園市、董事長:Thomas Yang 以下、SiAT 社)に投資するなど、積極的な事業拡大を進めており、今回の増設決定は、SWCNTのさらなる用途展開加速の礎となることが期待されます。ゼオンは今後も市場ニーズを捉え社会の期待に応えるとともに、人々の快適な暮らしに貢献してまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先:日本ゼオン株式会社 経営企画統括部門 広報室

電話:03-3216-2747 お問い合わせフォームは[こちら](#)